

生活工房とたどる

LIFESTYLE
DESIGN CENTER
ANNUAL REPORT
2015

April 2015 - March 2016

生活工房

アニュアルレポート

2015

記録の記憶

記憶の記録

生活工房

アニュアルレポート

世田谷文化生活情報センター

生活工房

Lifestyle Design Center

世田谷文化生活情報センター 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1
キャロットタワー 5F
電話：03-5432-1543
<http://www.setagaya-ldc.net>

50
意の5信
疑

2015
ANNUAL REPORT
DESIGN CENTER
LIFESTYLE

2016

生活工房

アニュアルレポート

2015

LIFESTYLE

DESIGN CENTER

ANNUAL REPORT

2015

April 2015 - March 2016

L I F E

S T Y L E

D E S I G N

C E N T E R

A N N U A L

R E P O R T

2 0 1 5

長らく眠っていた8ミリフィルムを投影し、思い起こされるあの日。
遠い祖先の記憶に触れるかのように、暦を大切にしてきた人々の暮らし。
夏休みの思い出を豊かな色彩でカタチにした子どもワークショップ。
三角地帯と呼ばれる歓楽街の今を調査する中で、見え隠れする戦後の情景。

生活工房の事業の多くは、過去と現在を行き来しながら
「記憶」と「記録」が交錯して生まれています。

2015年度の[アニュアルレポート](#)では、
私たちが事業を通じて出合った[記憶と記録の断片](#)をご紹介します。
[展覧会で掲げられた文章や講師の言葉、そして参加者の声……](#)。
ここに集められたテキストには、
それぞれの事業を象徴する大切な何かが秘められています。

記 記 た 生
憶 録 ど 活
の の る 工
記 記 房
録 憶 と

アイデンティティ を超えた、 より大きな価値



第11回 DAYS 大賞審査員特別賞「ガザ」 撮影：オリヴァー・バイケン (epa)

講演会の言葉

ジャーナリズムとは、
人間の問題を伝える職業であり、
人間の知る権利を守るための職業
なのだと思います。
それはどこかの国の国民という
アイデンティティを超えた、
より大きな価値に
裏付けられているものなのです。

広河隆一（フォト・ジャーナリスト／DAYS JAPAN 発行人）

広河隆一講演会「ジャーナリズムとは何か？」（2013年1月27日／会場：生活工房）より

ゆうらく通り

イラスト：山口洋佑



現代世相を
後世に残し
伝えるための
絶妙なもの

「考現学とは何か」からの言葉

われわれの続けられる仕事の一大集成ができあがったとするならば、ここに、現代人の生活ぶり、あるいは現代世相を後世に残し伝えるための絶妙なものができあがることになるだろう

今和次郎

『考現学入門』（筑摩書房）より

この星を
べつの星の宇宙人に
じまんしたくなった。

はたこうしろう（絵本作家）

この絵本でたつくさんの星を描いた。赤い金星、真っ青な海王星、あやしい縞模様の木星、そして燃える太陽。どれもきれいでうっとりする。でも、描いていて一番きれいなあ、と思った星は地球だ。すきとおった青が輝いて、雲が動いて色んな形になって、まるで生き物みたいだ。命が光る星だからか。ぼくらの足もとには、命があふれているんだ。そう思うと、この星をべつの星の宇宙人にじまんしたくなった。

『ぼくはうちゅうじん』あとがきの言葉



何としても織っている
人たちに会いたい



撮影：栗原諭

渡辺万知子（染色家）

まったく情報がないスンバ島へ行ったきっかけはヒンギの写真を見せられたことでした。布一面にななきが聞こえそうな馬の群れ、愛らしい鶏の親子、凜として立つ牡鹿、大きく口を開けたワニ、頭蓋骨を並べた異様な台が緋で描かれていました。牧歌的な模様でありながら迫力ある模様構成に圧倒され、魅せられました。何としても織っている人たちに会いたいと思い、出かけました。1972年のことです。

展示パネルの言葉

撮影会の時の講師の言葉

今日の写真見ても、
お洋服見ても、
稀にみるくらい出来がいいです。
みんななにか持つてる。
人と同じになる必要は絶対ないからね。
自分のやりたいことをやんな。

飛田正浩 (spoken words project)

人と同じになる必要は
絶対ないからね。



撮影：ゆかい

いつか捨てられる
傘がなくなって、
活動を終わられる
日が来ますように。

展示パネルの言葉

一人ひとりが必要以上にモノを買うことをやめ、
生活に必要なものを自分でつくるようになれば、
クリエイティブでサステナブルな
未来が見えてくるはずです。
そしていつか捨てられる傘がなくなって、
活動を終わられる日が来ますように。

CASA PROJECT

さらには人々にとっての
モニュメントにもなれる
のではないだろうか。

©Stephen Goodenough



講演会の言葉

例えば、紙管でつくった仮設建築でも、
住む人が長きに愛してくれれば、
それは恒久的な建築だといえるでしょう。
さらには人々にとっての
モニュメントにもなれるのではないだろうか。

坂 茂
(建築家)

シンポジウム「環境にやさしい住まい・暮らしが豊かな未来をつくる」
(2015年6月30日/会場：成城ホール) より

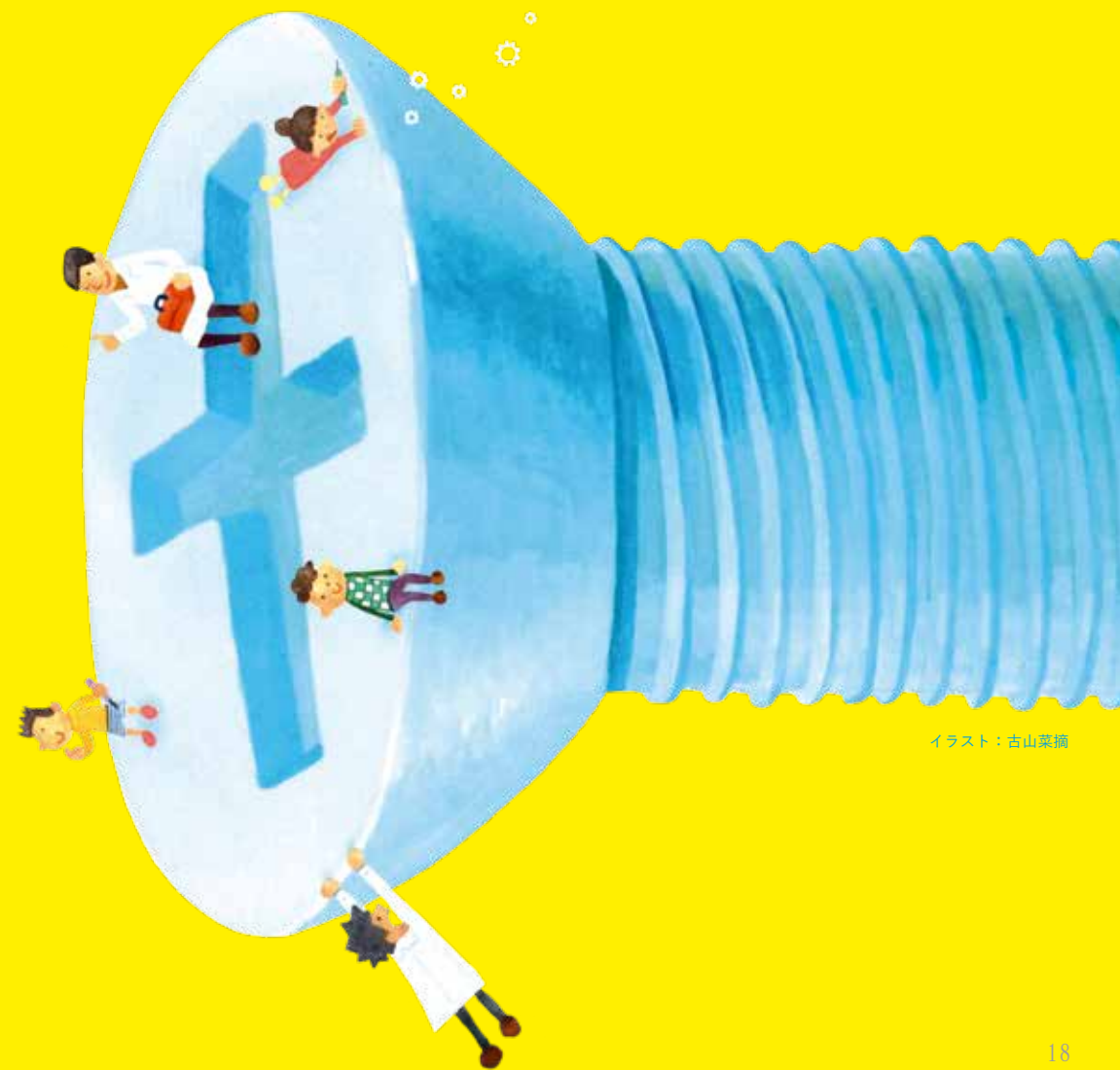


ワークショップ企画にあたっての言葉

このワークショップの始まりは2001年。子どもたちが、もっと大人を信頼することを願ったからでした。ソニーのエンジニア達に白衣を着てもらい、博士と呼ばび、子どもたちにしっかり対応してもらったのです。既に東芝のエンジニア達もそれらを引き継いで、頼りになる博士ぶりです。

落合良（生活工房顧問）

子どもたちが、
もっと大人を
信頼することを
願ったから



イラスト：古山菜摘

展覧会企画にあたっての言葉

服飾デザインには、流行や格好良さの
間にもっと重要な事があるのではない
か？という視点で、隙間を探していま
す。そのため、作る過程、つまり繊維
産地を歩くようにしています。その中
で見えてきたものは、これまで日本人
が培ってきた知恵です。和紙素材を作
る上で出会った撚糸屋さんの技術は、
糸を撚る事で原材料をより快適なモノ
にできるという、知恵の集結したもの
だと思います。

浜井弘治
(ファッションデザイナー)

流行や格好良さの間に
もっと重要な事がある

撮影：佐藤基

展示パネルの言葉

ここで確認したいのは、人生の節目として、結婚の儀式をするのは、二人のあいだだけでなく、本人たちの生きる社会における承認を受ける、ことに意味があるということだ。家族、親族、友人たちに承認されるのと、政府に承認されるのと、あなたはどちらが大事だろうか？

椎野若菜（文化人類学者）

本人たちの生きる
社会における
承認を受けること





ここでっていうのが
分かるんです。

フィルム提供者の言葉

自分が見たところも
憶えてるんです。
どこで見たっていうか、
ここでっていうのが
分かるんです。

紺がすりの筒袖の ひとえ単衣



写真：『伊豆大島 懐かしの写真集』（伊豆大島 懐かしの写真集刊行会 より）



藍の香り高い紺がすりの筒袖のひとえ単衣をすそ短かに着る風俗は今日に伝えられ、観光大島のシンボルになっている。

「あんこさん」についての展示パネルの言葉

それが
私の生まれた日
私が世界と
約束をはじめた日

展示パネルの言葉

私が生まれた日 ある春の日
あたりではナズナが咲いていた
北極ではホッキョクグマが狩りをして
北米の森ではグリズリーが
冬の眠りからまだ目覚めない
沖縄ではザトウクジラが飛び跳ね
インドではバニラの花が咲いていた
それが私の生まれた日
私が世界と約束をはじめた日

生活工房の考え方

Our vision and mission

生活工房では展覧会やセミナー、ワークショップなど多様な事業を展開しています。
そして、その多岐に渡る事業は、下図のような考え方や目的を組み合わせ実施されています。
We produce various programs along with the vision and missions of each category.

私たちが提案する価値観

Value to share

暮らし方をみつめなおし、
世界の出来事への関心を抱き、感性を磨く
Re-designing your everyday life, enlarge the mind
for global issues and brush up sensitivity

感性

*Sensitivity
sense of wonder*

美意識

*Aesthetic
consciousness*

方向性

Vision

文化の創造及び異文化との出会いは人を啓き、
地域を開き、未来を拓く
Cultural creation and intercultural exchange enlighten people,
open up local communities and lead our future.

暮らしのデザインミュージアム

Design museum of the living

生活文化という発想

生活工房では日常の暮らしの中にあるモノだけでなく様々な事柄に着目し、暮らし方のデザインを提案しています。
生きるという基本的な活動の「衣食住」、地球をとりまく環境と暮らし方、日本や世界の様々な地域の独自文化、伝統工芸と先端技術—根源的なことから創造性を育む領域まで、私たちのプログラムは多岐にわたっています。

地球のデザインという視点

2012年度（平成24年度）から「地球のデザイン」という視点を取り入れています。
その根本には「自然の叡智」に学ぶことも含まれています。
エネルギーや食糧のこと、70億を超えた地球人口のこと、生物多様性や気候変動への備えなど、21世紀の私たちを取り巻く環境にはたくさんの課題があります。

「生活文化」という発想に「地球のデザイン」という視点を加えて、そう遠くない未来の暮らし方を創造し、より良い社会を築くためのヒントを提供する機会を届けていきたいと考えています。

At “Lifestyle Design Center” or “Seikatsu – Kobo” in Japanese, we provide various programs focusing on how we live with better design of our fundamental issue of food, clothing and shelter, diversity of cultures of around the world, arts and crafts and advanced technology.

And since 2012, we add another aspect: “planetary design”. Without the wisdom of nature of our planet we won’t be able to make our living sustainable and efficient. How can we solve problems of our nature resource, food, growing population, biodiversity and climate change?

We believe that design as a creative thinking will inspire our daily life and make our world better place to live.

生活工房 の一年

- EXHIBITION 展覧会
- WORKSHOP ワークショップ
- SEMINAR/EVENT セミナー・イベント
- LOCAL COMMUNITY 地域と市民活動

10月

- 10/4 穴アーカイブ 8ミリフィルム鑑賞会
一穴からみえる、ひと、暮らし、世田谷
- 10/10 ~ 20 第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門受賞展覧会
「雨のち傘のち CASA PROJECT」
- 10/17.18 パオフェスタ 2015 市民活動体験喫茶パオ
- 10/23 ~ 11/15 JAPONDER2015 アフリカと結婚—留学生に聴く、ウガンダ共和国のこと

11月

- 11/1 子どもワークショップ 2015
「分解ワークショップ—家電製品の仕組みを探ろう！」
- 11/10 世田谷おはなしネットワーク講演会
「本の力を信じて—小さな出版社の32年」
- 11/28 ~ 12/20 坂 茂—紙の建築と災害支援

12月

- 12/26 ~ 1/24 WASHINOITO—未来を着る、浜井弘治の和紙のプロダクト展
- 12/27 SUNDAY MORNING WORKSHOP#2
新年を祝う・お正月飾りづくり

2016年

1月

- 1/24.31 SUNDAY MORNING WORKSHOP#3
みんなでつくってみんなで食べる日曜日のパスタ
- 1/30 ~ 2/28 三軒茶屋 三角地帯 考現学

2月

- 2/12 ~ 26 NHK 技研×生活工房 夏のアニメーションワークショップ報告展
(会場：技研ギャラリー)
- 2/20 国際交流 in せたがや 2016

3月

- 3/5 ~ 21 時間をめぐる、めぐる時間の展覧会
- 3/8.15 市民活動・NPO 活動を支えるコミュニティづくりセミナー
「仲間・サポーターを増やすには」
- 3/13.20.27 中学生次世代車教室 2016 「電動三輪車 E3 をつくろう！」
- 3/26 ~ 4/17 MADE IN OCCUPIED JAPAN 1947-1952 海を渡った陶磁器展

通年

- 朗読講座 豊かなことばの世界
- 森・里・海の連環による豊かな海づくり「レリーフジオラマ」上映会

2015年

4月

- 4/4 ~ 19 世田谷アートフリマつながり展 2015
- 4/18.19 世田谷アートフリマ vol.23
- 4/24 ~ 5/24 働く女性の衣装 大原女とあんこさん

5月

- 5/29 ~ 6/21 DAYS JAPAN 写真展 2015 地球の上に生きる
「世界の未来をつくるために」

6月

- 6/21 時をときはなつ vol.3 時のフィールドワークショップ
「水に満ちた木の皮を編む」
- 6/16 世田谷おはなしネットワーク講演会
「平塚ミヨ先生&光野トミ先生のおはなしを楽しむ会」
- 6/26 ~ 7/12 市民活動支援コーナーの日々展
- 6/27 穴アーカイブ キックオフイベント「みえないものをみる」

7月

- 7/4 時をときはなつ vol.3 時のドキュメンタリー上映会
「ものづくりの時」
- 7/18 ~ 8/21 はたこうしろう絵本原画展「ぼくはうちゅうじん」
- 7/20・8/2 子どもワークショップ 2015 「CASA PROJECT の工作室」
- 7/24.25.26.8/2 子どもワークショップ 2015 「14歳のワンピース」

8月

- 8/3.4 子どもワークショップ 2015
「夏のぐるぐるアニメーション in NHK 技研！」
- 8/11.12 子どもワークショップ 2015 「夏休みをいれるバッグをつくろう！」
- 8/19.20.21 子どもワークショップ 2015 「おはなしいっぱい」
- 8/28.10/4 7つの海と手しごと〈第6の海〉「インド洋とスンバ島のヒンギノラウ」
- 8/30.9/6 SUNDAY MORNING WORKSHOP#1
朝のクラフトビールとソーセージのワークショップ

9月

- 9/19.20 世田谷アートフリマ vol.24
- 9/26 時をときはなつ vol.4月を待つ
時のフィールドワークショップ「月をうつす」
時のドキュメンタリー上映会「満月の夜に」

02 生活工房とたどる記録の記憶、記憶の記録

30 生活工房とは

32 生活工房の1年

34 生活工房の事業

Exhibition [展覧会 事業報告]

38 働く女性の衣装 大原女とあんこさん

39 DAYS JAPAN 写真展 2015 地球の上に生きる「世界の未来をつくるために」

40 はたこうしろう絵本原画展「ぼくはうちゅうじん」

41 7つの海と手しごと〈第6の海〉「インド洋とスンバ島のヒンギ／ラウ」

42 第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門受賞展覧会

「雨のち傘のち CASA PROJECT」

43 JAPONDER2015 アフリカと結婚—留学生に聴く、ウガンダ共和国のこと

44 坂 茂—紙の建築と災害支援

45 WASHINOITO—未来を着る、浜井弘治の和紙のプロダクト展

46 三軒茶屋 三角地帯 考現学

47 時間をめぐる、めぐる時間の展覧会

48 MADE IN OCCUPIED JAPAN 海を渡った陶磁器展／

森・里・海の連環による豊かな海づくり「レリーフジオラマ」上映会

Workshop [ワークショップ 事業報告]

50 子どもワークショップ 2015「14歳のワンピース」

51 子どもワークショップ 2015「夏のぐるぐるアニメーション in NHK 技研！」

52 子どもワークショップ 2015「夏休みをいれるバッグをつくろう！」

53 SUNDAY MORNING WORKSHOP

54 子どもワークショップ 2015「分解ワークショップ—家電製品の仕組みを探ろう！」

55 中学生次世代車教室 2016「電動三輪車 E3 をつくろう！」

56 時のフィールドワークショップ&時のドキュメンタリー上映会「時をときはなつ」

Seminar / Event + Local Community [セミナー／イベント＋地域と市民活動 事業報告]

58 穴アーカイブ：an-archive

59 世田谷アートフリマ

60 おはなしいっぱい

61 朗読講座 豊かなことばの世界／

国際交流 in せたがや 2016

62 市民活動・NPO 活動を支えるコミュニティづくりセミナー「仲間・サポーターを増やすには」

63 市民活動支援コーナー／

世田谷市民活動支援会議

64 生活工房施設ガイド

66 クラシー＆カワルンが教える！ 来場者からわかること

68 生活工房のフライヤー

72 協力先一覧

生活工房の事業

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー／イベント」「地域と市民活動」の4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center provides four main figures of programs: Exhibition, Workshop, Seminar/Event and Local Community.

展覧会 EXHIBITION 新たな発見が暮らしを彩る

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

We are pioneering program of creative world of various designs, arts & crafts and intercultural experience into everyday life which will offer new and different view and value to share.



ワークショップ WORKSHOP 多彩なモノづくりを楽しむ

参加者が手や体を動かしながら「考え」「つくる」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

Our design and creativity workshops for all ages offer fun and inspiring time to experience.

セミナー／イベント SEMINAR/EVENT 社会を知る、学びを楽しむ

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れるさまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Wide-ranging program of seminars and events for adults brings the academic field and creative world of design into our everyday life.



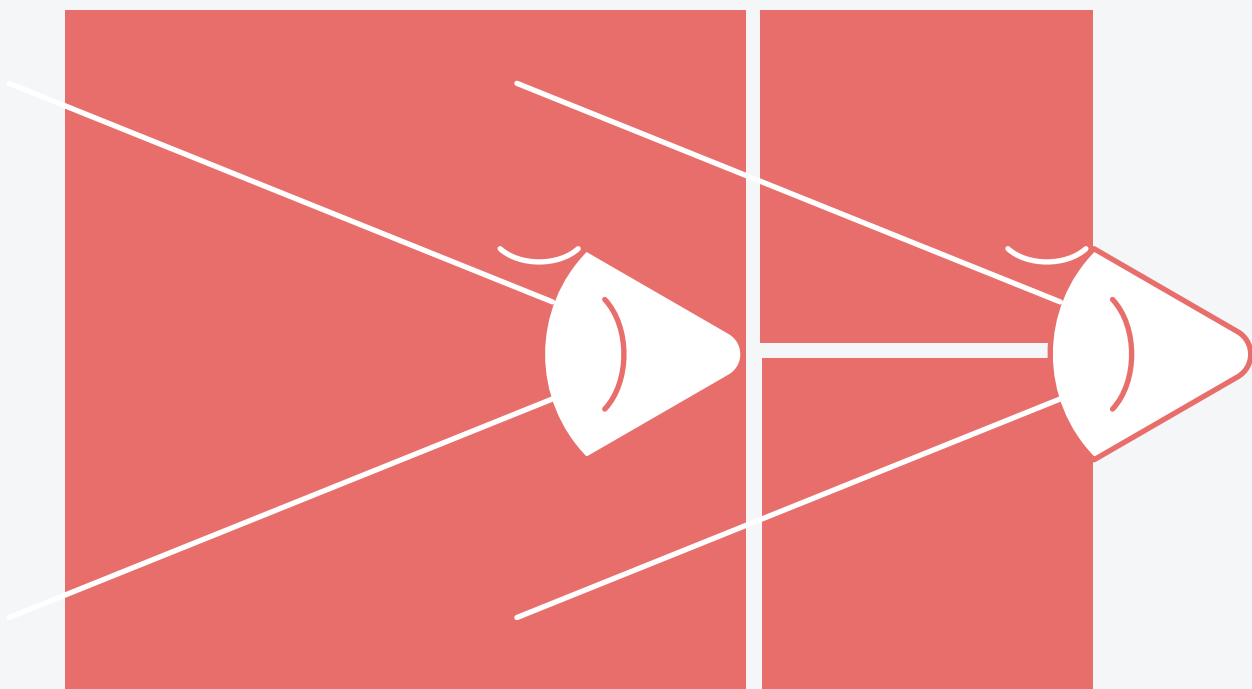
地域と市民活動 LOCAL COMMUNITY 地域とつながる

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

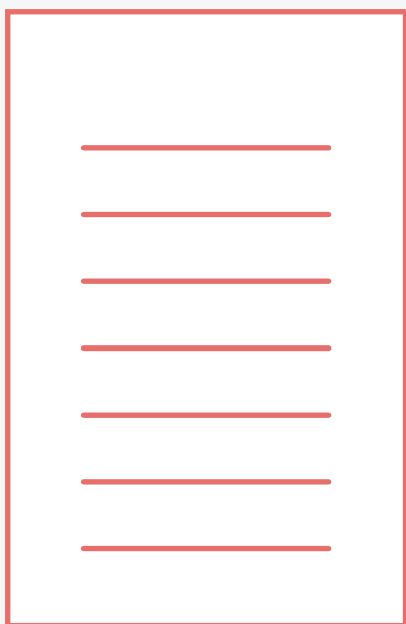
Operating activity space and supporting programs for non-profit organizations, we encourage local citizens' networking with various people and exchange ideas for developing sustainable society.



EXHIBITION



展覧会



世界の未来をつくるために



① 写真展会場
② 第11回DAYS大賞1位「リベリアを襲うエボラ危機」(撮影:ジョン・ムーア/Getty Images)
③ 広河隆一氏「ジャーナリストの視点から」

テレビや新聞の報道ではまだまだ伝えきれないほど、世界には厳しい現実、実に直面しながら暮らしている人々がたくさんいる。

月刊誌『DAYS JAPAN』が主催する「第11回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」には、人間

世界の 厳しい現実 リストが伝える、 フォトジャーナ

と自然の尊厳を主題として、国内外のフォトジャーナリストが撮影した世界の厳しい現実を写し出す作品が集まった。本年も生活工房では受賞作品を中心に写真展を開催した。

「リベリアを襲うエボラ危機」、「シリアとトルコ国境のクルド人難民」など、環境問題、貧困問題、戦間地域のなかで懸命に生きている人々の日々の姿も、紛れもない事実として、もはや私たちの生活と決して無関係ではないことを再認識させる。

写真展を通じて世界で起きている問題と向き合うことで、私たちが選択して踏み出す未来が、少しでも良い方向に進める一歩となることを祈るばかりだ。

開催日時: 2015年5月29日(金)～6月21日(日)
11:00～19:00 (最終日は17:00まで)
会場: ワークショップルーム B
来場人数: 3,644名
共催: 株式会社デイズジャパン
企画: 株式会社世田谷社

関連展示「地球の上に生きる 2015 - 忘れたくない沖縄・辺野古の海のこと」(撮影: 中村卓哉)
会場: 生活工房ギャラリー

関連企画
体験セミナー「イラクの素顔を知る体験講座～人情あふれる“紛争地”のお話」
開催日時: 6月7日(日) 14:00～16:00
会場: セミナールーム AB
進行: 池田未樹(認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター イラク事業担当)
参加人数: 33名
参加費: 500円

トークイベント「ジャーナリストの視点から」
開催日時: 6月14日(日) 14:00～16:00
会場: ワークショップルーム A
講師: 広河隆一(フォトジャーナリスト、『DAYS JAPAN』発行人)
参加人数: 77名
参加費: 500円

40代男性の声
写真とはいえ目の前の現実
に立ちつくした。

働く女性の衣装 大原女とあんこさん

① 手拭いは「吹き流し」(大原女)
② キリッとした手拭い被り(あんこ)
③ ソーメンシボリの手拭いと水桶も頭に乘せる体験講座講師(あんこ)



40代女性の声
働く女性の服飾美、
機能的でいい刺激を受けました。

開催日時: 2015年4月24日(金)～5月24日(日)
9:00～20:00
会場: 生活工房ギャラリー
来場人数: 3,500名
協力: NPO 法人京都古布保存会、大原観光保勝会、大島町、大島観光協会、藤井工房

関連企画
講演会「大原女衣裳とあんこさんの服装あれこれ」
開催日時: 4月25日(土) 14:00～15:30
会場: セミナールーム
講師: 青木美保子(京都女子大学准教授)
参加人数: 15名
参加費: 500円

講演会「アートのみる大原女とあんこさん」
開催日時: 5月9日(土) 14:00～15:30
会場: ワークショップルーム A
講師: 田中圭子(京都造形芸術大学講師)
参加人数: 10名
参加費: 500円

体験とおはなし「衣裳を着てみませんか?」
開催日時: 5月16日(土)、17日(日)
14:00～17:00
会場: セミナールーム A
進行: 大原観光保勝会、大島町商工会ほか
参加人数: 20名
参加費: 500円

華やかな姿から 歴史を ひもとく

本展では現代の観光資源として昔からの労働着が活かされている、京都の大原女、伊豆大島のあんこさんの衣装を今昔抱き合わせで紹介した。

大原の里は中世以降、薪や柴(雑木の小枝)の生産地だった。大原

女は京都の市中に薪や柴を売りに出るのが仕事で、大正の末ごろまで続いていたという。華やかな色の帯や襷がけが目を引きいでたちで、薪や柴を頭にのせて歩くその姿は優雅ささえ感じさせる。

一方伊豆大島ではその昔、島の女性たちは朝から晩まで水汲み、牛の世話、港に船がつけば荷揚げ、荷運びなど、本当に良く働いていたという。前垂れという前掛けには好みの花柄などの色味のあるものを使い、長く伸ばした黒髪を束ね、それを覆うように巻いた手拭いの被り方が特徴的だ。

衣裳の他に昔から絵画やポストカードなどに表現されてきた労働の姿や風俗、それぞれの地域の特長と歴史的な背景を紹介する構成とした。

インド洋とスンバ島のヒンギ／ラウ



① ヒンギとラウを中心に、染色や龍細工に使われる現地の植物も展示（撮影：栗原諭）
 ② スンバ島とそのイカットについて講演する渡辺万知子氏
 ③ 腰機体験では、身近な材料のみで布が織れることを実感した

イカットに
織り込まれた
スピリット

世界の海の暮らしをクラフトを通して紹介していく連続企画、「7つの海と手しごと」〈第6の海〉として、インド洋に浮かぶスンバ島（インドネシア共和国）に伝わるイカット（絣織物）、ヒンギとラウを取り上げた。男性用の衣服「ヒンギ」は腰に巻き、肩に掛ける。女性用「ラ

ウ」は筒状に仕立ててまとう。いずれも、女性たちが昔ながらの腰機で織っている。描かれるモチーフには祖霊崇拜に基づいた世界観が表されている。馬は男性の富の象徴、エビは子孫繁栄、カニや魚は村人の一体感、両手を挙げた赤子は強い戦士の誕生など。安住の地を求めて島伝いに海を渡ってきた祖先の伝説を表す船も描かれる。文字のなかった時代に、一族の存続と繁栄を願う心を布に織り込め、後世に伝えてきたものだ。本展では、染織家・渡辺万知子氏の貴重なコレクションから、ヒンギとラウほか民芸品など約30点を展示。関連の講演やワークショップもあわせて開催した。

70代男性の声
 布を織り、まとい、生活する、
 この全てを感じられる展示。

開催日時：2015年8月28日（金）～10月4日（日）
 9:00～20:00
 会場：生活工房ギャラリー
 来場人数：8,403名
 特別協力：渡辺万知子
 協力：日本—インドネシア服飾文化協会

関連企画
講演会「スンバ島のイカットと人々の暮らし」
 開催日時：8月29日（土）14:00～16:00
 会場：ワークショップルームB
 講師：渡辺万知子（染織家）
 参加人数：55名
 参加費：500円

記録映像上映「スンバ島の家を建てる」
 開催日時：9月6日（日）1日2回上映
 13:00～14:15／15:00～16:15
 会場：セミナールームAB
 参加人数：38名
 参加費：無料

体験教室「腰機でベルトを織る」
 開催日時：9月12日（土）14:00～16:30
 会場：ワークショップルームA
 講師：渡辺万知子（染織家）
 参加人数：15名
 参加費：1,000円（材料費込み）

はたこうしろう絵本原画展 ぼくはうちゅうじん

①「ぼくはうちゅうじん」原画（撮影：栗原諭）
 ②「ぼくはうちゅうじん」ラフスケッチ（撮影：栗原諭）
 ③はたこうしろう氏によるトークイベントの様子

夏休み、
親子で楽しむ
絵本の世界

子どもがとらえた世界の新鮮さをそのまま描いているような、はたこうしろう氏の絵本。夏休み期間にあわせ、男の子がキャンプの夜に出会った星空を描いた『ぼくはうちゅうじん』の原画とラフスケッチ、女の子が晩夏の草むらで小さな生きものたちと出会う『こんに

ちは またあした』の原画を展示した。構図や展開を考える過程がうかがえるラフスケッチもあわせて公開し、来場者は熱心に見入っていた。また、はた氏によるトークイベント「わからないから面白い、宇宙と絵本の話」を、「おはなしっばい」（P.60）の特別枠として開催。虫捕りに明け暮れた子ども時代の話に始まり、それを描いた絵本の作家本人による読み聞かせもあり、会場は大いに盛り上がった。「世の中には制約がたくさんあるけれど、絵を描くということは数少ない制約がないことのひとつ。自由に絵を楽しんでほしい」とのメッセージが印象的だった。

開催日時：2015年7月18日（土）～8月21日（金）
 9:00～20:00
 会場：生活工房ギャラリー
 来場人数：7,038名
 協力：世田谷おはなしネットワーク、TSUTAYA 三軒茶屋店、アリス館

関連企画
トーク「わからないから面白い、宇宙と絵本の話」
 開催日時：8月21日（金）14:00～15:00
 会場：ワークショップルームA
 出演：はたこうしろう
 対象：子どもと保護者
 参加人数：126名
 参加費：無料

10代未満女子の声
 すごくきれいでした。
 えからでてるみたいでした。

アフリカと結婚 留学生に聴く、ウガンダ共和国のこと



① ウガンダの派手婚を体験する撮影コーナーも
② ウガンダの婚礼の衣装
③ パナナの煮込み料理カトゴを調理

JAPONDER (ジャポンダー) は、留学生を通して世界の先端研究や社会的課題、生活文化を知る企画である。きっかけは1989年、上祖師谷に祖師谷国際交流会館(現・上智大学祖師谷国際交流会館)が建設されたことに始まる。開館から20年の間に延べ90以上の国や地域から5千名強の留学生が世田谷

結婚から
見えてくる
ウガンダの今

区民として生活した。そして住民たちが、留学生と地域とを結び活動を行うSUNUSを立ち上げ、2005年から生活工房との協働でJAPONDERが始まった。
今年度取り上げたのはウガンダ共和国。東京外国語大学の留学生であるイアン・カルシガラ氏とその夫人である文化人類学者・椎野若菜氏の研究展示から、ウガンダの社会問題や、人類学の視点から見たアフリカの結婚を紹介した。二人の研究からは、ウガンダの現在進行形の国の姿と、結婚という人生儀礼における人の生きざまが見えてきた。そして食のワークショップでは、留学生から主食のパナナの家料理を習い、ウガンダをまるごと味わった。

開催日時: 2015年10月23日(金)～11月15日(日)
9:00～20:00
会場: 生活工房ギャラリー
来場人数: 3,633名
協力: NPO法人FENICS、佐藤靖明(「パナナの足」研究会・大阪産業大学)

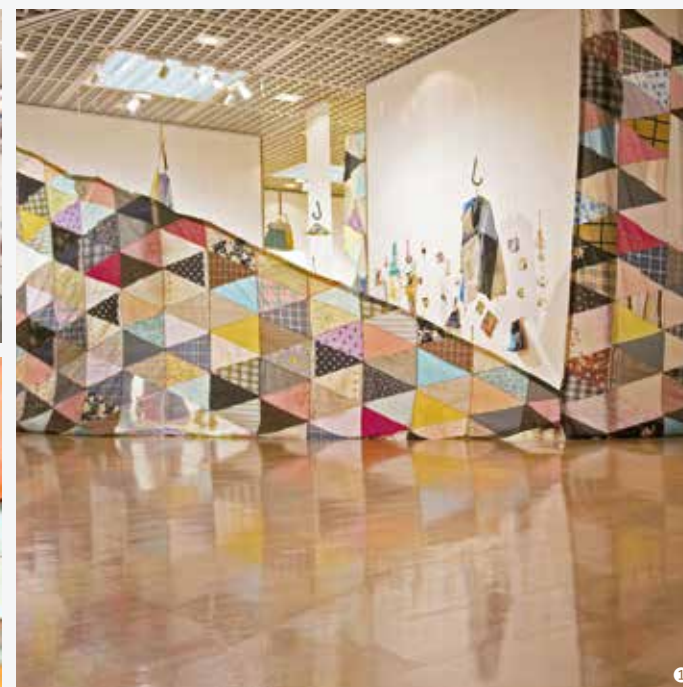
関連企画
ワークショップ「パナナウガンダ! 新婚さんのお家ごはん」
開催日時: 2015年11月14日(土) 10:00～14:30
会場: ワークショップルームA
講師: イアン・カルシガラ、椎野若菜
参加人数: 19名
参加費: 2人21組で3,000円

20代女性の声
いつも生活工房さんの企画楽しみにしています。世田谷区民で良かったな～と思う瞬間です。

雨のち傘のち CASA PROJECT



① 傘の生地に使った工房(撮影:須賀浩二)
② 作品やパネルの他、傘の部品も展示(撮影:須賀浩二)
③ 分解した傘を使ったモバイルの制作

傘から
生まれる
モノづくり

次代の文化・芸術分野を担う若手アーティストが飛躍する機会をつくるため、賞を設け発表の場を提供する世田谷区の事業「世田谷区芸術アワード“飛翔”」。第4回目となる本賞の《生活デザイン部門》を受賞した、

CASA PROJECTの取り組みを紹介した。
いつも何気なく使っている傘。実はその年間消費量は、国内だけでも約1億2千万本とも言われている。CASA PROJECTはそんな不用品になった傘を「新たな材料」として捉えなおし、作品やプロダクトに生まれ変わらせている活動だ。
今回は、子ども向けのプレイベントを夏に実施し、その場で不用になった傘の回収も行った。秋の展覧会とワークショップでは、こうして回収した傘をもとに発表。傘の特徴を活かしたユニークな作品も参加者の手から生まれていった。身近な傘を通して、これからのモノづくりを考える機会となった。

開催日時: 2015年10月10日(土)～10月20日(火)
9:00～20:00
会場: 生活工房ギャラリー
来場人数: 4,674名
共催: 世田谷区
協力: 株式会社世田谷サービス公社、世田谷美術館、世田谷文学館
企画制作: CASA PROJECT

プレイベント
夏の子どもワークショップ2015
「CASA PROJECTの工房」
1. CASAのブンカイ術
開催日時: 7月20日(月・祝) 午前の回10:30～11:30 / 午後の回13:30～14:30
会場: ワークショップルームA
対象: 小学1年生～中学生
講師: HOUKO (CASA PROJECT)
参加人数: 31名
参加費: 300円

2. CASAのセイサク術
開催日時: 8月2日(日) モビールの回10:30～12:00 / バッグの回14:00～16:00
会場: ワークショップルームA
対象: 小学1～4年生(モビールの回)、小学5年生以上(バッグの回)
講師: HOUKO (CASA PROJECT)
参加人数: 30名
参加費: 500円

関連企画
ワークショップ「CASA PROJECTの工房」
開催日時: 10月17日(土) ガーランドの回11:00～12:00 / スマホケースの回15:00～16:00、18日(日) モビールの回11:00～12:00 / コースターの回15:00～16:00
会場: ワークショップルームB
講師: HOUKO (CASA PROJECT)
参加人数: 49名
参加費: 500円

70代女性の声
捨ててしまう傘が素敵な袋物になり感動。

WASHINOITO 未来を着る、浜井弘治の和紙のプロダクト展



①「伝統的」という和紙のイメージを刷新するデザイン
②和紙プロダクトが出来るまでの出会いのエピソード
③折り紙を折る要領で立体的なバッグをつくる

和紙を 着ることは、 未来を 着ること

日本家屋に欠かせない素材であった和紙。和紙は日本の風土を呼吸して、私たちの暮らしを快適に保ってきた。そして和紙は、「住まうための素材」だけではなく「着るための素材」として洋服生地への応用・研究が進められている。本展では、ファッションデザイナー 浜井弘治氏とともに

に、和紙にこめられた先人の知恵に触れつつ、最先端の素材と捉え、和紙糸と和紙プロダクトの可能性を伝えた。
気候変動の影響で2100年には年間平均気温が現在より2〜3度上昇すると予測される日本。木綿の10倍の吸水性と3分の1の軽さをもつ和紙糸のプロダクトは、未来の衣服を快適にする素材として注目されている。
展示では、日本の繊維産業の歴史や課題に触れつつ、和紙が糸となり、布が服となるまでのドラマを、漫画家・内田春菊氏のイラストレーションで紹介した。和紙糸の洋服に自由に触れられるようにし、そのシャリっとした生地に、未来の手触りを感じてもらった。

20代女性の声
外見だけのファッションではなく、内面（機能性や環境面）を重視していきたいなと思いました。

開催日時：2015年12月26日（土）～2016年1月24日（日）9:00～20:00
会場：生活工房ギャラリー 来場人数：4,020名
協力：有限会社大原織物、株式会社オザキブリーツ、株式会社山陽ニット、クーリオデザインオフィス、篠原テキスタイル株式会社、島田製織株式会社、シマダテキスタイル株式会社、中伝毛織株式会社、ニッセンファクトリー株式会社、備後撫糸株式会社、有限会社マジカルユニット、株式会社アクトブラバリー、有限会社エムドゥーコム、株式会社O'sps Creative、合同会社匠山泊、有限会社リシア、学校法人文化学園 文化服装学院
展示会場イラストレーション：内田春菊

関連企画
ワークショップ「和紙布でつくるトートバッグ」
開催日時：2016年1月16日（土）10:30～12:00 / 13:30～15:00 / 16:00～17:30
会場：ワークショップルームA
講師：浜井弘治
参加人数：65名 参加費：2,500円

公開インタビュー「和紙布に未来はあるのか?」
開催日時：2016年1月17日（日）14:00～15:30
会場：ワークショップルームA
ゲスト：浜井弘治、松下久美（『WWD ジャパン』シニアエディター）
参加人数：41名 参加費：500円（学生300円）

坂 茂 — 紙の建築と災害支援

① 展示会場
② 親子体験ワークショップ「避難所をつくろう!」
③ 参加者に避難所の課題を解説する坂茂氏



災害時の 「住まい」とは

坂茂氏の建築の特徴は、紙管をはじめとする身近な材料の特性を見出し、独自の構造や工法へと展開することにある。
これまで〈紙の家〉（1995年）や〈ハノーバー国際博覧会日本館〉（2000年）など、個人住宅から公共施設まで多岐にわたり手掛けてきた。また、自身の知識と経験を活か

した災害支援活動も世界各地で続けている。
今回の展示会場全体も連結した紙管で構成された。代表的な建築をパネルや模型で紹介するとともに、被災地の避難所環境の改善のために設計された〈避難所用簡易間仕切りシステム〉（2011年）を会場に再現するなど、近年頻発する自然災害のなかで人々の「住まい」がいかにあるべきかを、その建築と活動を通じて再認識させる展示会となった。
また、親子体験ワークショップ「避難所をつくろう!」では、自分の手で紙管を組み、避難所づくりを体験。参加者全員で災害時の不安や課題点を挙げながら、日頃から備えることの大切さについて話し合った。

70代女性の声
まさに災害と人に寄り添う建築だと感じました。

時間をめぐる、めぐる時間の展覧会



① めぐりくり返す自然と人間の一年の営みを表現した「時の大河」(撮影：セセン設計所)
② 日照時間や寒暖の変化に連動する生きもののリズムを紹介(撮影：永峰拓也)
③ 時と人間のこれまでを壁面風に描いた「時の精霊」(撮影：永峰拓也)

24時間・365日休みなく時を刻む、時計とカレンダー。私たちの社会の規律をかたちづくり、世界中がそのリズムで動いているかのように見える。しかしその一方で、一瞬のよう

に感じる時間もあり、永遠だと感じる時間もまた存在している。そして私たちは、はるか昔やはるか未来のことを想像する力がある。同じ地球の上でも、山や海、砂漠や雪原などさまざまな土地に流れる時間、そしてそこに生きる私たち一人ひとり、動植物の一つひとつの命には、それぞれ測りようもない時間が流れているのかもしれない。私たちにとって時間とは何か、そしてこれからの時間の過ごし方を、ともに考える展覧会として企画した。

時の約束を
交わしながら、
私たちは
生きている

開催日時：2016年3月5日(土)～3月21日(月・休)
真昼(11:30頃)から暗くなる(18:30頃)まで
会場：ワークショップルームAB/生活工房ギャラリー
来場人数：4,260名
共同企画制作：アートディレクション・環境デザイン・アートワーク：セセンシトカ
展示協力：公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京、公益財団法人 下中記念財団、一般財団法人 進化生物学研究所、remo [NPO 法人記録とメディアのための組織]、千代の亀酒造株式会社、小野行雄

関連企画
上映会「めぐる季節、約束の物語」
開催日時：3月12日(土) 14:00～17:00
会場：セミナールームAB
参加人数：38名
参加費：無料

おはなし会「世界のはじまり、時のはじまり」
開催日時：3月19日(土) 13:30～15:00
会場：展覧会場内
出演：世田谷おはなしネットワーク
参加人数：60名
参加費：無料

ワークショップ「日時計をつくろう」
開催日時：3月20日(日・祝) 10:00～12:30
会場：セミナールームBほか
講師：小野行雄(日時計作家)
参加人数：17名
参加費：1,000円

20代女性の声
生きるということの本質を
見つめ直せるような展示でした。

三軒茶屋 三角地帯 考現学

① 提灯がとる展示会場(撮影：永峰拓也)
② 細い路地のような構成(撮影：永峰拓也)
③ 個性的なイラストが目をはきく(撮影：永峰拓也)



三軒茶屋の 迷宮をゆく

世田谷通りと玉川通り(国道246号)に挟まれた三軒茶屋のデルタ地帯——通称「三角地帯」。戦後に立った闇市の名残を留めるこの一角は、時に「迷宮」と紹介されるような細い路地が入り組んだエリアとなっている。

本展ではこの三角地帯に焦点をあて、多角的に調査し紐解くことを試みた。考現学を提唱した建築学者・風俗研究家の今和次郎の手法にならい、店舗の営みや往来する人々をイラストレーションで記録していった。例えば、店舗を網羅した地図や供されるお通しの傾向、スナックで歌われる音楽、通行量の多い抜け道、通行人の特徴など。5組のイラストレーターとエッセイストが、いつかは消えてしまう景色・営みを地域の文化・習俗として切り取った。

40代男性の声
ずっと気になっていた三角地帯を
とてもよく調べてあり感激！

MADE IN OCCUPIED JAPAN 1947-1952 海を渡った陶磁器展

日本の
ものづくり
から
戦後70年
を見つめる



にぎやかな陶磁器たち

のこもった愛らしい陶磁器は、
私たちに平和のメッセージを伝
えてくれた。

第二次世界大戦後、連合国の占領下にあった日本。民間貿易が再開された昭和22年から27年にかけての5年間の輸出品には「Made in Occupied Japan」(占領下の日本製)の刻印が義務付けられた。本展では、田中荘子氏(米国オキュバイド・ジャパンクラブ代表)のコレクションから、名古屋、瀬戸、有田などの産地で、製造・輸出された陶磁器のうち約200点を里帰り展示した。

開催日時：2016年3月26日(土)～4月17日(日)
9:00～20:00
会場：生活工房ギャラリー
来場人数：924名(3月31日現在)
協力：田中荘子、米国オキュバイド・ジャパンクラブ、
瀬戸ノヘルティ文化保存研究会、一般財団法人名古屋陶磁器会館、吉原ゆう子

関連企画
トークイベント「海を渡った陶磁器と戦後70年」
開催日時：2016年4月10日(日) 14:00～15:30
会場：ワークショップルームA
講師：田中荘子(米国オキュバイド・ジャパンクラブ会長)
参加費：300円

森・里・海の連環による豊かな海づくり「レリーフジオラマ」

へえー、
こんなところに……。



迫力の映像。百間は一見にしかず、です。

プロジェクション・マッピングといわれる、立体的な映像作品。ゆったりとした音楽が流れる中、正面のスクリーンに加え、床に置かれた大きな模型に映像が映し出される。美しい日本の自然、四季を感じながら、約5分間で学ぶ、自然の循環と人々の関わり物語。

目を輝かせる子どもたち。耳元で語って聞かせている、お母さんお父さん。一生懸命メモを取る学生。繰り返し浸っているお年寄り……。それぞれのひとときを楽しめる場所だ。三軒茶屋キャロットタワー2階、渡り廊下の突き当り。隠れた名所になるかも。

開催日時：2015年4月～2016年3月(上映日数152日)
会場：八角堂
来場人数：4,335名

WORKSHOP

ワークショップ

14歳のワンピース

- 1 笑いあふれる撮影会で14歳の自分を記録する
- 2 シルクスクリーンの技法で布にプリントするデザインのアイデア出しのための10の質問を発表
- 3



今だけの 気持ちを ワンピースに 込める

spoken words projectのデザイナー
飛田正浩氏を講師に迎え、14歳の中学生たちが3日間かけて、自らの心模様を洋服生地デザインした。飛田氏の「言葉に出来ない感情を言葉に言葉にするように、私はその感情をあえて服にしています」という服

づくりをなぞるように、このワークショップも自分の気持ちを表す「言葉」から始まり、それを色や形に変換してデザインしていく。
初めて会うメンバーも3日間のうちに打ち解けておしゃべりに花が咲く……のが例年だが、今年の参加メンバーは黙々と作業をするタイプ。講師もスタッフも初め戸惑ったが、結果その集中力が非常に完成度の高い、洗練されたテキスタイルづくりにつながった。
今年で5年目となるワークショップ。初年度に参加した14歳の中学生たちは今頃、どんな女性に成長しただろうか。試行錯誤しながらプログラムをブラッシュアップし、ワークショップも成長を続けている。

中学2年生女子の声
ふだん体験できないことや、一生に一度しかできないことをしたので、とても良かった。

開催日時：2015年7月24日(金)、25日(土)、26日(日) 10:00～17:00 [制作]、8月25日(火) 13:00～17:00 [撮影会]
会場：ワークショップルーム AB
講師：spoken words project 飛田正浩
対象：中学2年生女子
参加人数：15人 (+保護者など15人)
参加費：4,000円
協力：池田晶紀 (ゆかい)

開催日時：2015年8月3日(月)、4日(火) 10:00～17:00
会場・共催：NHK放送技術研究所
協力：NHK放送研修センター、東京工芸大学
講師：小柳貴衛 (アニメーション作家)
対象：小学3年生～中学生
参加人数：46人 (+保護者など35人)
参加費：500円

関連企画
NHK技研×生活工房 夏のアニメーションワークショップ報告展
開催日時：2016年2月12日(金)～26日(金) 9:30～18:00 (土日祝は休み/最終日は12:00まで)
会場：NHK放送技術研究所 1F 技研ギャラリー
来場人数：7,228名

中学1年生男子の声
改めて裏方は緑の下の力持ちだと思いました。

夏のぐるぐるアニメーション in NHK技研！



- 1 作画した絵を一枚一枚コマ撮り撮影
- 2 本番前の緊張の面持ち
- 3 収録スタジオで笑顔の記念撮影

NHK放送技術研究所を舞台に、映像と放送の仕組みを体験するワークショップ。前半は、コマ撮りアニメーションづくり。ひと・植物・妖怪……などのお題からキャラクターを考え、みんなの絵がぐるぐるつながって、変化していくさまを作画する。アニメーションは、ラテン語で靈魂

プロの 放送の現場は ドツキドキ！

を意味するanima(アニメ)に由来しており、動かないものに命を与えて動かすことを意味する。講師の小柳貴衛氏がアドバイスしながら、モノが動く時の、加速・減速・弾性などの表現を加えることで、突如動きが生きてくる。それは、アニメの語源を体感する瞬間でもある。
後半は放送スタジオでの番組収録。キャスターやリポーターの出演側と、カメラマンやフロアディレクターなどの裏方と、両方を体験した。プロの現場の息を呑む緊張感が、子どもたちの表現力やユーモアを引き出す。
生活工房の子どもワークショップは本物に出会うこと、を何よりも大切にしている。

SUNDAY MORNING WORKSHOP



① オリジナルのお正月飾りは稲藁を拘うところから
② 残暑厳しい8月にぴったりの美味しい組み合わせ
③ みんなでつくった料理を囲んで乾杯！

日曜日の朝を ワークショップで 愉しむ

大人のための日曜・朝のワークショップ。今年度も「日曜の朝をちょっと贅沢に」をコンセプトに3企画を行った。
9月の第1回は、近年注目を集める「クラフトビール」と、ビールとも相性のいい「ソーセージ」がテーマ。レクチャーや試飲・試食を通じてそ

れぞれ個性がある美味しさや魅力について学んだ。第2回は年の瀬の日曜に、新しい年を迎えるための「お正月飾りづくり」を実施。伝統的な手法で稲藁（いなわら）を編（な）ってオリジナルの注連縄を完成させた。1月の第3回は「ホームメイド・パスタ」。イタリアでは、家族や友人が集まる日曜のランチはとても大事なものの、つくるところから食べるところまでが食の時間。講師がフィールドワークした現地の食の話も聞きながら、1日目は普段の日曜日、2日目は祝いごとの特別な日曜日をテーマに、手打ちパスタなど「難しくない、でも手間と時間をかけてつくる」シンプルなイタリア料理をみんなで楽しんだ。

30代女性の声
日曜日の朝を有意義に活用できてよかった。

#1 朝のクラフトビールとソーセージのワークショップ
開催日時：2015年8月30日（日）、9月6日（日）
10:00～13:00
会場：ワークショップルーム A
講師：真田了仙（クラフトビアハウス ラッシュ・ライフ）、齋藤裕司（ファインシュメッカー サイトウ）
参加人数：30名
参加費：3,000円（2回分）

#2 新年を祝う・お正月飾りづくり
開催日時：2015年12月27日（日）10:00～12:00
／14:00～16:00 ※各1回完結
会場：ワークショップルーム A
講師：サナダスタジオ
対象：中学生以上
参加人数：37名
参加費：1,500円

#3 みんなでつくってみんなで食べる日曜日のパスタ
開催日時：2016年1月24日（日）、31日（日）
会場：ワークショップルーム A
講師：宮浦宜子（Life on the Table）
参加人数：21名
参加費：3,000円（2回分）

夏休みをいれるバッグをつくろう！

① シルクスクリーンや箔押しも体験
② 描いたり、押したり、貼りつけたり
③ 世界に一つの楽しいバッグが完成



お気に入りの

バッグに、

夏の思い出

たくさんつめよう

夏休み、もっとたくさんの人に生活工房に来て、生活工房を楽しんでもらいたい！ そんな思いから生まれたワークショップである。若手デザイナーたちが講師となり、お屋さんのように、バッグを裝飾するための、ステンシル、シルクスクリン、アイロンプリント、

などさまざまな材料・技法のプログラムを用意した。制作時間は約1時間強。シンブルな布のバッグはみるみる、賑やかでお洒落なバッグに変身した。
日頃あまり接点がない、デザイナーたちと子どもたちが出会い一緒にものをつくること。そこには、子どもたちがさまざまな職業の大人たちと出会い、いろんな働き方や生き方があることを知ってもらいたいという願いがある。
子どもだから、ではなく、センスと遊び心の効いた、大人も欲しくなってしまうようなバッグをつくりたい！ デザインは楽しいということを感じてもらいたい。それを実現するワークショップとなった。

開催日時：2015年8月11日（火）、12日（水）
13:00～17:00
会場：ワークショップルーム AB
講師：NNNNY、桐山阿弓（MAN）+ bodysong、金箔寺、Colliu、OYA PRESS、sunshine to you!
木原佐知子、monyomonyo
対象：小学1年生～中学生
参加人数：146人（+保護者など190人）
参加費：500円

小学1年生女子の保護者の声
おうちはやってあげられないけど、お姉さんやお兄さんと一緒に創造力、デザインがふれてくるみたいです。

電動三輪車 E3 をつくろう！



- ① 電動三輪車の分解と組み立てをグループで行う
- ② 地球環境・エネルギー問題についてのレクチャー
- ③ 装置を使ってモーターの仕組みを学ぶ参加者

分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう！

- ① 食品を温めるための要はどの部品？
- ② 分解したら素材ごとに分けてリサイクル
- ③ 分解しながら生まれた疑問を博士と答え合わせ



分けて解く ことで知る、 モノの仕組み

今年で15回目を迎えた分解ワークショップは、ノートパソコン、ロボットクリナー、電子レンジ、炊飯器といった家電製品の仕組みを、親子で分解しながら調べるワークショップである。メーカーの技術者たちが「分解博士」として作業をサポート

して、一つひとつネジを外し、部品に戻していく。「ものづくり」ではなく「分解」から、ものの仕組みを理解するという逆さまの発想は、私たちに新たな示唆を与えてくれる。現場でまず驚くのは、一つひとつの部品の美しさだ。例えば細かい部品で構成された電子基盤は、まるでミニチュアの街のよう。しかしその材質、形、色には役割と意味があり、何一つ無駄なものはない。そこには削ぎ落とされた機能美がある。そんなプロダクトデザインの原点を体験できるのも、このワークショップの魅力だ。家に帰って同じ家電製品を使う時、ボタンを押す時、きつと今までは違う気持ちが生まれるだろう。

小学3年生女子の保護者の声
普段やったことのないことばかりで楽しかった。子供が驚きながら夢中になれることは素晴らしいです。

開催日時：2015年11月1日（日）13:30～17:00
会場：ワークショップルーム AB
対象：小学3年生以上の親子2人1組
参加人数：46組
参加費：1,000円
協力：株式会社東芝
ドキュメンテーション：等々力心太郎（記録のデザイン室）

中学2年生男子の声
近い将来が、新しいモビリティで楽しみになった。

開催日時：2016年3月13日（日）、3月20日（日・祝）
11:00～16:00、3月27日（日）8:00～17:00
会場：東京都立総合工科高等学校（13、20日）、トヨタ自動車大学校（27日）
対象：世田谷区在住、在学の小学6年生～中学3年生
参加人数：33名
参加費：3,500円
共催：東京都立総合工科高等学校
協賛：トヨタ自動車株式会社
企画制作：一般社団法人日本EVクラブ

世田谷の新しい モビリティを 考えよう！

今年も次世代を担う中学生を対象に開催した。地球環境・エネルギー問題を「自動車」の視点から考える体験ワークショップ。これまでも「電気自動車」「プラグインハイブリッドカー」などの、さまざまな次世代車を教材に実施してきた。今年のテーマは「交通の未来」。近い将来、枯渇するといわれるエネル

ギーの問題、災害などの緊急時における交通手段の改善は重要な課題だ。これからの社会は、より便利で快適な移動モビリティを可能にする新しいパーソナルな交通手段が求められている。全3回の講座では、人類が抱えるエネルギー問題の現状と、世界のパーソナルモビリティとそれを活用する地域の交通を参考にしながら、私たちの暮らす世田谷に求められる新しい交通について考えた。また、企画進行の日本EVクラブが開発した「電動三輪車スイングE3」の分解と組み立てを行い、最終日は電気カーットの試乗や「トヨタMIRRA」のデモ走行など、新しいモビリティを体感した。

LOCAL COMMUNITY

SEMINAR / EVENT

セミナー／イベント 地域と市民活動

時のフィールドワークショップ&時のドキュメンタリー上映会

時をときはなつ vol.3・4

① みずみずしい桑の木の枝を採る(時のフィールドワークショップ「水に満ちた木の皮を編む」)
② さまざまな木の皮をなったり編んだり。講師の長谷川美和子氏(同)
③ 世田谷の竹で、月をうつす盃づくり(時のフィールドワークショップ「月をうつす」)



時のフィールドワークショップ vol.3「水に満ちた木の皮を編む」

開催日時: 2015年6月21日(日) 10:00~16:30
会場: ワークショップルーム A、近隣の散歩道
講師: 長谷川美和子(木のヒゲ)
参加人数: 15名
参加費: 2,500円

時のドキュメンタリー上映会 vol.3「ものづくりの時」

開催日時: 2015年7月4日(土) 14:00~17:30
会場: ワークショップルーム A
参加人数: 38名
参加費: 無料

時をときはなつ vol.4「月を待つ」

時のフィールドワークショップ「月をうつす」
開催日時: 2015年9月26日(土) 13:00~16:00
会場: ワークショップルーム A
参加人数: 14名
参加費: 1,500円

時のドキュメンタリー上映会「満月の夜に」

開催日時: 9月26日(土) 16:30~19:00
会場: ワークショップルーム A
参加人数: 42名
参加費: 無料

共同企画制作: セセンシトカ
協力: 株式会社奥会津昭和村振興公社、一般財団法人
世田谷トラストまちづくり、世田谷区生涯学習・地域・
学校連携課、渡辺万知子

60代女性の声
あらためて、
人と自然の絆を感じる場でした

時計と
カレンダーの
中から、
時をときはなつ。

天体の動きとともにめぐる季節、
くりかえす昼と夜。人間を含めた
地球上のすべての生命は、自然の
律動と同調しながら、それぞれの
リズムを刻んでいる。しかし私た
ちの生活は、あまりにもその律動
から遠く離れてしまった。24時間
化する産業、明るい夜。比例しな

い時間と距離、季節を問わず手
に入る食べ物。これからさらに加
速度を増して(即時化)「高速化」(均
質化)する「時」に、私たちのこ
ころとからだはついて行けるのだ
ろうか。

本企画で目指したのは、「自然の中
に流れる時間、体の中に流れる時
間」に立ち返ること。「時のフィ
ールドワークショップ」では、フィ
ールドに出かけていき、ほかの命
の「時」と出合い、かかわる。「時
のドキュメンタリー上映会」で
は、地球上のさまざまな地で生き
る人々の「時」を、記録映像を通
して想う。かわること、想うこ
との中から新たな「時」を見つけ、
自然とともにゆらぐ時間をさぐる
企画となった。

世田谷アートフリマ



① 多くの人が訪れる会場
② 子どもに人気のワークショップ
③ 「つながり展」の様子



『世田谷アートフリマ (Art Flea Market = アートの「のみ市」)』とは、オリジナルの作品を手掛ける作り手の発表の場であり、「もの」を通して「世田谷」に関心を持つきっかけの場でもある。今年も春と秋に開催し、会場には大勢の人たちが足を運んでくれた。出展ブースには個性豊かな作品が並

考える人、
作る人、見る人。
さらに充実した
イベントへ！

開催日時:[Vol.23]2015年4月18日(土)、19日(日)
11:00～17:00[Vol.24]9月19日(土)、20日(日)
11:00～17:00
会場:ワークショップAB、セミナールームAB、市民活動支援コーナー
来場人数:[Vol.23]約6,000名 [Vol.24]約7,000名
共催:世田谷アートフリマプロジェクト
協力:世田谷 233

関連企画
世田谷アートフリマつながり展 2015
開催日時:2015年4月4日(土)～19日(日)9:00～20:00(最終日は17:00まで)
会場:生活工房ギャラリー
出展作家:Emi(キリハリエ)、小田ひで次(漫画)、ゴトウヨシタカ(写真)、コヤナギアイコ(クレイ粘土)、佐々木朋哉(ミニチュア)、STUDIO UNICORN(フォトアート)、Storm Machine Graphics(イラストレーション)、永井キオ(鉄造オブジェ)、モリヒロミ(シルクスクリーン)、ヤスハラユキ(P'sBOX)(フェルト)
来場人数:4,680名

40代女性の声
種々色々な展示があり
とても興味深かったです。

ぶとともに、地元のパンあり、ワークショップもあり、ちょっとしたお祭り気分が楽しめる。
世田谷アートフリマの特徴は、「もの」を通じて、それを作った人に直接つながれること。遊びにくる人には、自分のお気に入りの見つける機会として、お店を出す人にとっては、自分の作ったものを見んなに見てもらふ機会になる。そして、今回遊びにきた人が、次回は自分のお店を出してみたい！となるかも知れない。
「世田谷」という地域限定だからこそ、自分の暮らす街の魅力の再発見にもつながる。世田谷アートフリマは、そんなきっかけがたくさん生まれることを願って行われるイベントである。

穴アーカイブ：an-archive

① フィルム提供者の自宅出張上映会
② 公開鑑賞会の様子
③ 老朽化のため、この数日後に一色邸は解体



記録の穴から みえるもの

昭和30～50年代にひろく普及した8ミリフィルム。当時の街並みや暮らしぶりを記録した貴重な資料となりつつある一方で、家庭の押入れのなかで眠ったままであることも少なくない。
本プロジェクトは、この8ミリフィルムに焦点をあてた参加型のアーカイブ活動である。本年度は、日

フィルムの提供者、ボランティアの集い「せたがやアカカブの会」など、多くの人の関わりのもと実施した。16時間ほどのフィルムが集まり、当時の街並みや暮らしをよく伝える映像を選別し、計6時間程度をデジタル化することになった。
公開鑑賞会では、学生がファシリテーターとなって来場者から語りを引き出していった。映像を媒体にして鑑賞者の記憶が想起され、フィルムには映っていない出来事も語られていく鑑賞会となった。その後、デジタル化した映像は生活工房内外の鑑賞会や展覧会の場で活用されていった。今後も記録されていない部分を手がかりに、アーカイブを実践していく。

40代男性の声
映像を上映しながら、その関係者にインタビューするという手法が秀逸。

募集期間:5月25日(月)～8月15日(土)
提供フィルム数(提供人数):16時間程度(15名)
企画制作:remo[NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
協働機関:日本大学文理学部社会学科後藤章研究室
協力:NPO法人映画保存協会、コガタ社

キックオフイベント「みえないものをみる」
開催日時:2015年6月27日(土)10:30～12:00
会場:ワークショップルームB
来場人数:45名

8ミリフィルム鑑賞会一穴からみえる、ひと、くらし、世田谷
開催日時:2015年10月4日(日)14:00～15:30
会場:ワークショップルームB
来場人数:98名

一色邸オープンハウスでの上映会
開催日時:2015年11月7日(土)14:00～15:00
会場:一色邸(世田谷区経堂2丁目)
来場人数:35名

おはなしいっぱい

- ① からだ全体で、ママのおはなしを吸収する
- ② さまざまな小道具も駆使しながら、おはなしの世界に引き込む出演者
- ③ ときには聞き手の子どもたちも主役になる



朗読講座 豊かなことばの世界

毎日
使っている
ものだから、
こそ。

選り抜きの日本語の文章にじっくりと向き合い、声にしていく。シンプルだけど、奥の深い世界。それぞれの暮らしの中で、時間をやりくりしてきた受講生たちにとって、がんばれば、がんばっただけ得るもののある豊かな世界である。

取り上げた作品
夏目漱石「吾輩は猫である」「三四郎」「坊っちゃん」
島崎藤村「千曲川のスケッチ」
芥川龍之介「トロッコ」「蜘蛛の糸」
川端康成「伊豆の踊子」
壺井栄「二十四の瞳」
太宰治「斜陽」
向田邦子「思い出のトランプ」
森鷗外「最後の一句」
伊藤左千夫「野菊の墓」

心地よい緊張。読み手も、聞き手も。



開催日時：年4回（4月期、7月期、11月期、2月期）
各4講座（水曜午前・午後、木曜午後、金曜午後）
会場：セミナールームA
講師：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
対象：一般
参加人数：660名
参加費：20,500円（4回分）、アツカード会員は18,500円
共催：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

朗読発表会
開催日時：2016年3月6日（日）13:30～16:30
参加人数：69名
参加費：無料

第24回国際交流 in せたがや 2016

草の根が
海を越えていく

笑顔は世界をつなぐカギ

開催日時：2016年2月20日（土）13:00～16:00
会場：ワークショップルームAB、セミナールームAB
参加費：1,000円
来場人数：324名
共催：世田谷海外研修者の会

生活工房では、区民団体が行う国際交流事業を共催、サポートしている。今年で第24回目を数えるこの催しは、区民の有志のみなさんによる手づくりの国際交流事業で、在日外国人との文化交流の場となっている。各国の大使館大使、書記官なども交えて、にぎやかな時間を楽しんだ。合計26か国からさまざまな人々が集まり、世界各国のPRブースでは、自国の文化紹介や、特産品の販売が行われて来場者の人気を得た。また、お茶のお手前や和服の着付けなど日本文化の体験コーナーも好評で、区民と在日外国人の交流を深めるイベントとなった。

40代女性の声
人から直接聞くおはなしのぬくもりを体験できました。

開催日時：2015年8月19日（水）11:30～14:40、
20日（木）11:00～14:40、21日（金）11:00～15:00
会場：ワークショップルームAB
出演：18グループ
来場人数：延1,516名
共催：世田谷おはなしネットワーク
協力：世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館

関連企画
講演会「平塚ミヨ先生&光野トミ先生のおはなしを楽しむ会」
開催日時：2015年6月16日（火）10:00～12:00
会場：ワークショップルームA
講師：平塚ミヨ・光野トミ（国立おはなしの会）
参加人数：106名
資料代：100円

講演会「本の力を信じて——小さな出版社の32年」
開催日時：2015年11月10日（火）10:00～12:00
会場：セミナールームAB
講師：恵良恭子（「のら書店」代表取締役）
参加人数：97名
資料代：100円

区内で活動する、
おはなしの会が
大集合！

「世田谷おはなしネットワーク」と共催する本企画では、毎年、3日間のおはなし会『おはなしいっぱい』と2回の講演会を開催している。おはなし会は、構成、出演、準備のすべてを参加者が行う市民の手作り企画として回を重ね、今年度で15回

目を迎えた。幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、すばなし、手あそび、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な上演を行い、特別ゲストには、生活工房ギャラリーで絵本原画展を開催中の絵本作家はたこうしろう氏をお呼びした（P.40参照）。講演会では、長年おはなしの活動を行ってきた「国立おはなしの会」の平塚ミヨ氏と光野トミ氏、絵本出版社「のら書店」代表・恵良恭子氏のお話をうかがい、演者としての造詣を深めた。

※1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、60のグループ・個人会員から成る。

市民活動支援コーナー

さまざまな

市民団体の

活動の場

生活工房には、世田谷区内の公益的な市民活動団体が登録して日常的に利用する「市民活動支援コーナー」がある。

同コーナーでは、登録団体による活動成果を発表する展覧会「市民活動支援コーナーの日々展2015」、恒例イベントとなった「市民活動体験喫茶パオ」も開催された。会場には各団体が工夫して活動紹介や展示ブースを設置。毎回、さまざまな活動をしている団体に会えるとともに、団体間の交流の場としても好評を得ている。

場所：生活工房 3F
開館時間：9:00～21:00（月曜休館）
委託先：特定非営利活動法人国際ボランティア協会（IVUSA）
来場人数：21,696名

関連企画
市民活動支援コーナーの日々展 2015
開催日時：2015年6月26日（金）～7月12日（日）9:00～20:00
会場：生活工房ギャラリー
来場人数：1,890名

パオフェスタ 2015 市民活動体験喫茶パオ
開催日時：2015年10月17日（土）、18日（日）11:00～18:00
会場：市民活動支援コーナー
来場人数：665名



「市民活動支援コーナーの日々展2015」

世田谷市民活動支援会議

世田谷は、市民活動が盛んだ。NPOやボランティア団体など、さまざまなグループが活動している。世田谷市民活動支援会議は、「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワーク。行政である世田谷区と、施設や助成金の提供など、多様な形で活動を支える中間支援団体で構成されている。毎月連絡会議を開くとともに、市民活動団体へのヒアリング調査をまとめた冊子の作成や、「活動の広げ方」をテーマにした勉強会などを行った。

世田谷の市民活動、
応援します。



勉強会「共感を呼ぶ活動の広げ方」

他の構成団体：世田谷区生活文化都市市民活動推進課、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、NPO 昭和

仲間・サポーターを増やすには

① ③ 第1回「自分たちのコミュニティの魅力を高める！」
② 第1回講師の呉哲煥氏



コミュニティ

づくりの

大切さを学ぶ

市民活動、NPO活動には「コミュニティづくり」が大切である。ここでの「コミュニティ」とはNPOや市民活動団体の活動を周囲で支えるボランティアや支援者、サポーターのことだ。今回の講座ではコミュニティづくりの大切さと、団体の現状を把握することで、実

際にコミュニティづくりを進める方法について学んだ。

第1回では、コミュニティの目的、対象、価値を可視化することで、多様な関わり方のデザインや新しい仲間の巻き込み方を話し合った。続く第2回は、自分たちのコミュニティの推進力を高めるために、それぞれが共有すべき目的意識と温度差を検証しながら、お金ではない「報酬」「価値」について考えた。団体や組織にとって、活動に賛同して何かの時には活動を応援してくれる人たちがいることは重要なこと。コミュニティの存在が、参加者一人ひとりにとっても成長や学びの場として機能していることが実感できたセミナーだった。

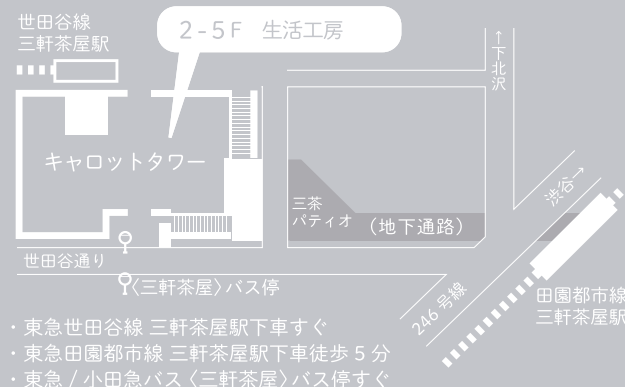
50代女性の声
モヤモヤしてた団体の課題が
簡潔に考えられた。

第1回「自分たちのコミュニティの魅力を高める！」
開催日時：2016年3月8日（火）18:30～21:00
会場：セミナールーム AB
講師：呉哲煥（NPO法人CRファクトリー代表理事）
参加人数：20名
参加費：1,000円

第2回「自分たちのコミュニティの推進力を高める！」
開催日時：2016年3月15日（火）18:30～21:00
会場：セミナールーム AB
講師：五井利明（NPO法人CRファクトリー 事業部長）
参加人数：14名
参加費：1,000円

企画：株式会社世田谷社

生活工房へのアクセス



休館日・管理休館日：年末年始・月曜日（貸出施設のみ。祝日の場合は除く）
所在地：東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
TEL 03-5432-1543
URL <http://setagaya-ldc.net/>

生活工房は、 地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。
スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせください。

生活工房 施設ガイド

5F

講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。

セミナールーム A 74㎡/定員48名/利用時間9:00～22:00



セミナールーム B 83㎡/定員48名/利用時間9:00～22:00



ワークショップルーム A 126㎡/定員50名/利用時間9:00～22:00



ワークショップルーム B 145㎡/定員50名/利用時間9:00～22:00



ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルーム A」は、“ものづくり”やトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63㎡）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。
「ワークショップルーム B」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

4F

生活工房ギャラリー 開館時間：9:00～20:00



市民活動支援コーナー 利用時間：9:00～21:00



生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」では、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（貸出はしていません）。
「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です（有料）。

3F

※森・里・海の連環による豊かな海づくり「レリーフジオラマ」（→P48）は、2F八角堂に常設しています。

つぶやきからみる生活工房

3月10日

時間潰しに「時間をめぐる、めぐる時間の展覧会」に。これが思いがけず良く、閉館間際だったけどすっかり心洗われた。**時間、神話、文明、humanityが小箱に詰まったようなセレンディビティ体験。**一番ぐっときたのは言葉で想起させるインスタレーション。古今の詩人の一節が掲示してあり、読むうちに様々な「時」が脳内で立ち上がる。

2月27日

プラタモリ民としては行かざるを得ない「三軒茶屋 三角地帯 考現学」

2015年12月28日

生活工房のWSで、注連縄を作った。とても楽しかった。四手や、ウラジロの意味、しめ縄が3本の縄でできてることを知ったし、藁の匂いがいい！これから藁をもらって毎年作ろうと思いました♪♪

2015年12月21日

劇場の向かいの「坂茂一紙の建築と災害支援」もよかった。阪神大震災の時、避難所で何泊かしたけど、ちょっとスペースが区切られてるだけで随分ストレス度が違うと思う。**それを体感できる展示になった。**

2015年12月5日

「紙の建築と災害支援」展。**紙の優しさ、頼もしさを感じる。**

展覧会やワークショップの感想など、生活工房についての素直なつぶやきを集めてみたよ。

2015年10月4日

金や水牛、馬と同じ重みのヒンギ／ラウ
展示のヒンギに鼻を近づけて天然染料の匂いに彼の地を思い出し、涙する

2015年9月13日

「インド洋とスンバ島のヒンギ／ラウ」。インドネシアのイカット(絨)。染めの前工程である括りに1〜4カ月もかかるとか。そして下図を描かず、**頭の中にある構図を頼りに括っていくという解説に(°Д°)**

2015年7月5日

生活工房で、世界各地の伝統的な手仕事の映像を見るイベントがありました。ぎりぎりに残っている手仕事もあればすでに消えてしまったものもあるようです。**10年後にはどうなっているのでしょうか？**

2015年6月17日

はたさんの原画展楽しみー！！

2015年6月13日

生活工房 @ 世田谷区 刊行物がおしゃれ

2015年6月5日

ここ数年恒例の「DAYS JAPAN 写真展 2015」を観る。相変わらず**圧倒される写真の数々**。入場無料だし、渋谷からも近いので、時間つくってでも行くべき！

はじめての生活工房

参加してみて
どうでしたか？

自分たちだけではなかなかできない体験を、知らない人と話しながらできた。子どもたちとも一緒にできて、発想がおもしろかった。他の人たちが作ったモノも見ることができて楽しい！（美術館的要素もあった！）さまざまな職種の人がいるので新しいネットワークが広がると思う！

忘れ物の傘にこんな利用法があったんだ！！初めて生活工房に立ち寄って、新しい視点が生まれました。知的好奇心がすぐられます。そして忘れ物の傘の本数に驚きました。忘れないように心掛けるようになりました。

クリエイターの活動を応援されているステキな場だと思います。

こちらの3人は「雨のち傘のち CASA PROJECT」(→ p.42)のワークショップに参加。この関連企画「CASA PROJECTの工作室」ではまるまる2日間、ワークショップルームが工作室に！大人から子どもまで一緒にって、傘を素材にものづくりを楽しんでくれました。

生活工房では毎年モニター調査を行っているけど、今年度は、これまでに来たことがなかった人にプログラムを体験してもらって、お話をきいてみたよ。



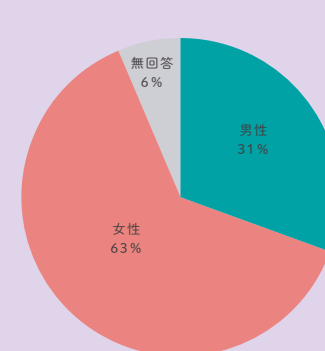
来場者からわかること

来場者の声に耳を傾けてみると、生活工房のいろんな面がみえてきます。アンケートやモニター調査、SNS などを通して集まった来場者の様子を、ホームページに登場するキャラクター、「クラシー」と「カワルン」に解説してもらいます。

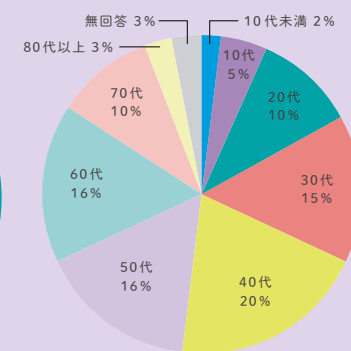
数字で見る生活工房

来場者数	来場者総数	140,946名	事業数	事業総数	75件
展覧会	72,685名		展覧会	15件	
	※関連イベント参加者を含む		関連イベント	20件	
ワークショップ	885名		ワークショップ	10件	
セミナー・イベント	729名		セミナー・イベント	16件	
地域と市民活動	37,616名		地域と市民活動	14件	
貸館使用者・来場者	29,031名				

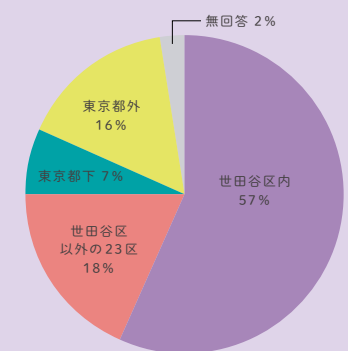
来場者の男女比



来場者の年代



来場者の住まい



参加してみて
どうでしたか？

自分たちだけではなかなかできない体験を、知らない人と話しながらできた。子どもたちとも一緒にできて、発想がおもしろかった。他の人たちが作ったモノも見ることができて楽しい！（美術館的要素もあった！）さまざまな職種の人がいるので新しいネットワークが広がると思う！

忘れ物の傘にこんな利用法があったんだ！！初めて生活工房に立ち寄って、新しい視点が生まれました。知的好奇心がすぐられます。そして忘れ物の傘の本数に驚きました。忘れないように心掛けるようになりました。

クリエイターの活動を応援されているステキな場だと思います。

こちらの3人は「雨のち傘のち CASA PROJECT」(→ p.42)のワークショップに参加。この関連企画「CASA PROJECTの工作室」ではまるまる2日間、ワークショップルームが工作室に！大人から子どもまで一緒にって、傘を素材にものづくりを楽しんでくれました。

三軒茶屋に来たのも初めてでしたが、場所もわかりやすく良かったです。

人と地域と新しい生活のあり方に気付きが生まれる企画をされているなと思いました。

「新年を祝うお正月飾りづくり」に母子で参加し、生まれて初めて縄作りを経験してみて、こんなに大変なのか！と驚きました。完成した時は、とても嬉しく、良いお正月を迎えられました。

無料でここまでの展示物がみられるのはすごいなと思いました。展示デザインもみやすくスタイリッシュにされていて、いろんな展示をみてみたいなと思いました。

これまで来なかった理由って？

- 知らなかった！
- キャロットタワーの上には行かない……。
- 何がやっているのかわからなかった。
- ふらっと入りづらい。
- ワークショップの回数、定員が少ない。
- 内容もわかりづらいときがある。

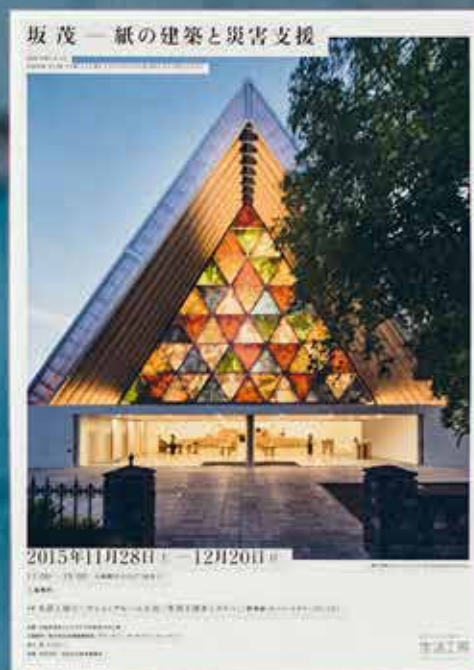
認知度アップ、施設周辺からのわかりやすい誘導、活動内容のPRなどに工夫が必要だね！

Flyer Gallery

それぞれの事業のこと、そして生活工房のことを知ってもらおうと、今年度もバラエティに富んだフライヤーをお届けしました。その一部をご紹介します。



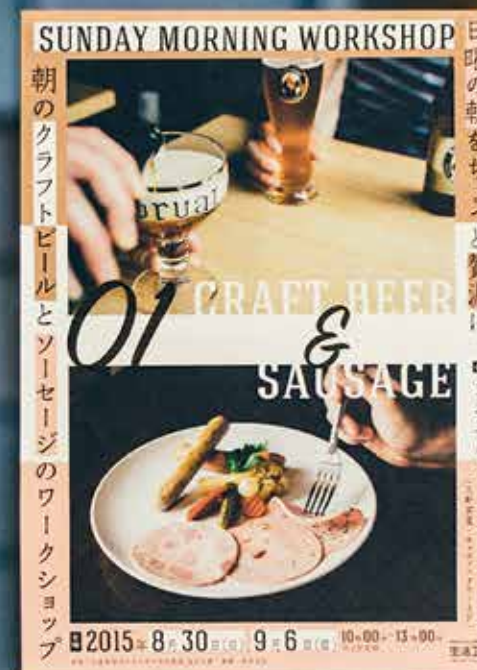
②



①



②



①



④



③



④



③

- ①「坂茂—紙の建築と災害支援」デザイン=満端貢 写真= Stephen Goodenough
 ②「インド洋とスンバ島のヒンギ/ラウ」デザイン=大西隆介 (directionQ)
 ③「WASHINOITO—未来を着る、浜井弘治の和紙のプロダクト展」デザイン=戸田征義
 ④「時間をめぐる、めぐる時間の展覧会」デザイン= sesensitka

- ①「朝のクラフトビールとソーセージのワークショップ」デザイン=土屋勇太 写真=永峰拓也
 ②「新年を祝うお正月飾りづくり/みんなで作ってみんなで食べる日曜日のパスタ」デザイン=土屋勇太 写真=永峰拓也
 ③「三軒茶屋 三角地帯 考現学」デザイン=江森文晃 イラストレーション=生平桜子
 ④「JAPONDER2015」デザイン=吉田達矢



3



2



1



6



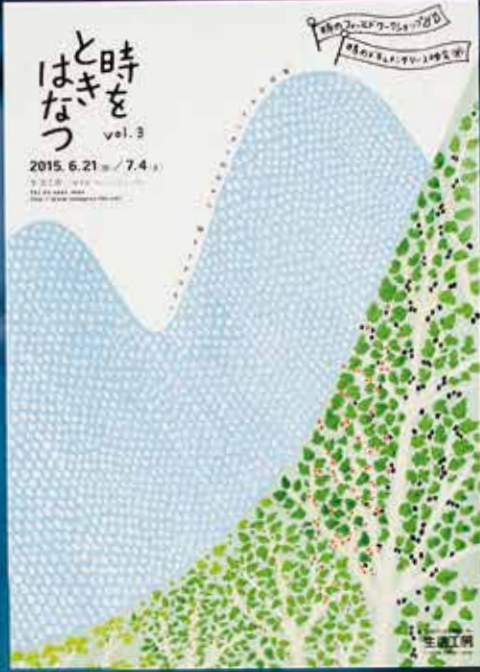
5



4



2



1



4



3

1②「時をときはなつ」デザイン=佐々木真由子 (sitka)
3「雨のち傘のち CASA PROJECT」デザイン=田中至
4「分解ワークショップ」デザイン=古山菜摘

1「穴アーカイブ 8ミリフィルム鑑賞会」デザイン=有佐祐樹
2「はたこうしろう絵本原画展 ぼくはうちゅうじん」デザイン=松田洋和
3「働く女性の衣装 大原女とあんこさん」デザイン=アイ・エイチ ファクトリー
4「夏の子どもワークショップ」アートディレクション=いすたえこ (NNNNY) グラフィックデザイン=渡辺明日香 マンガ=ロビン西
5「DAYS JAPAN 写真展 2015」デザイン=世田谷社
6「MADE IN OCCUPIED JAPAN 1947-1952」デザイン=片山中蔵 写真=佐藤基

LIFE STYLE DESIGN CENTER ANNUAL REPORT

生活工房 2016 年度事業(4～6月)のご案内

■事業一覧

4.23(土)・24(日)

世田谷アートフリマ vol.25

4.23(土)～5.22(日)

いぬと、ねこと、わたしの防災
いっしょに逃げてもいいのかな? 展

5.28(土)～6.19(日)

DAYS JAPAN 写真展 2016

6.12(日)・6.25(土)・7.3(日)

先どり! インタースコア・ワークショップ
わかるとかわる「情報編集力」連続講座

6.21(火)

おはなしネットワーク講演会
「まどさんという宇宙～104の年輪をもつ人」

6.25(土)～7.24(日)

市民活動支援コーナーの日々展 2016

※詳細はホームページをご覧ください。

ご支援・ご協力いただいた

企業、団体、教育・公共機関等

(各 50 音順・敬称略)

共催 NHK 放送技術研究所、(一財) NHK 放送研修センター日本語センター、
世田谷アートフリマプロジェクト、世田谷おはなしネットワーク、世田
谷海外研修者の会、世田谷区、(株) デイズジャパン、東京都立総合工科
高等学校、トヨタ自動車大学校

協賛 トヨタ自動車 (株)

協力 (株) アクトブラバリー、旭・デュボン フラッシュスパン プロダクツ (株)、
アリス館、NPO 法人映画保存協会、NHK 放送研修センター、(有) エム
ドゥーコム、大島観光協会、大島町、(有) 大原織物、大原観光保勝会、(株)
奥会津昭和村振興公社、(株) オザキブリーツ、(株) O'sps Creative、
NPO 法人京都古布保存会、クーリオデザインオフィス、コガタ社、(株)
山陽ニット、篠原テキスタイル (株)、島田製織 (株)、シマダテキスタ
イル (株)、(公財) 下中記念財団、(同) 匠山泊、(一財) 進化生物学研
究所、世田谷おはなしネットワーク、世田谷区生涯学習・地域・学校連携課、
世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館、(株) 世田谷サービス公社、(一
財) 世田谷トラストまちづくり、世田谷美術館、世田谷文学館、世田谷
233、瀬戸ノベルティ文化保存研究会、千代の亀酒造 (株)、TSUTAYA
三軒茶屋店、東京工芸大学、(株) 東芝、中伝毛織 (株)、(一財) 名古屋
陶磁器会館、ニッセンファクトリー (株)、日本ーインドネシア服飾文化
協会、日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室、備後燃糸 (株)、NPO
法人 FENICS、藤井工房、(学) 文化学園文化服装学院、米国オキュバイド・
ジャパンプラブ、(有) マジカルユニット、(公財) 吉田秀雄記念事業財
団アド・ミュージアム東京、(有) リサイア、remo [NPO 法人記録とメディ
アのための組織]

後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

生活工房アニュアルレポート 2015

発行日：2016 年 4 月 23 日

編集協力：杉本勝彦

デザイン：土屋勇太

協賛：株式会社東急コミュニティ

印刷：山田写真製版所

編集・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー

電話：03-5432-1543 ファックス：03-5432-1559

メール：info@setagaya-ldc.net

<http://www.setagaya-ldc.net>

生活工房アニュアルレポートとは――

生活工房の 1 年間の活動をまとめた記録・報告書です。

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。

©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2015-2016

Printed in Japan